

外国人とのコミュニケーションのための

異文化体験と

「やさしい日本語」講座

「やさしい日本語」とは

外国人にとって「わかりやすい日本語」のことです。

地域で暮らす外国人に何かを伝えたいとき、私たちはどんな日本語で話せばいいのでしょうか。この講座では異文化体験をきっかけにして「やさしい日本語」、そして外国人との暮らしやすい地域づくりを考えます。

日 程：2016年 1月25日（月）午後2時～4時

会 場：神戸学生青年センター 会議室（阪急六甲駅より北東へ徒歩3分）

講 師：福井武司さん（神戸YWCA学院日本語コース副主任講師）

参加費：無料

対 象：どなたでも

お申込み：1月20日（水）までに下記連絡先へ

問合わせ：（公財）神戸学生青年センター

TEL078-851-2760/FAX078-821-5878/ Email:info@ksyc.jp

となりに越してきた
外国人家族。
もし地震が起きたら、
どうしはるんやろ？

ゴミの出し方が違うんやけど、
どない言うたら、ええんやろ？

「津波が来たら、高台へ
避難」っていう看板見た
けど、通じるんかな？



主催：神戸学生青年センター

神戸YWCA の「やさしい日本語講座」とは

「やさしい日本語」とは 外国人にとってわかりやすい日本語のことです。

現在、日本では192か国、約204万人の外国人が暮らしています※。皆さんがお住まいの町や地域でも外国人を見かけることは普通のことになっていないのでしょうか。普段の生活の中のゴミの出し方から震災や火災など緊急時の情報提供まで、ことばや文化の壁を越え、彼らとうまく理解し合い、住みよい社会を作っていくことは、私たち日本人の課題であると言えます。

ことばはコミュニケーションツールとして最も重要なものの一つです。彼らと話すとき、なんとなく、外国人だから日本語が通じないんじゃないか、とか、外国人だから英語で話しかけないといけないんじゃないか、などと思っははいないのでしょうか。実際はそうではなく、私たちが普段使っている日本語に少し工夫をすれば、伝わることも多いのです。

外国人とともに住みやすい地域づくりを考えると、日本人自身が「やさしい日本語」を意識することはとても大切なことだと思います。神戸YWCA学院では「やさしい日本語講座」と題し、クイズや異文化体験のワークショップを通じて、「やさしい日本語」に馴染み、外国人とともに暮らす「共生社会」について考えていけたらと思っています。

※法務局入国管理局「在留外国人統計 2012年末」より

神戸YWCAではこの講座の「出前」を実施しています。
関心をお持ちの団体やグループの方、ぜひご相談ください。

☆今までにこんなところで実施しました☆

- 若菜地区ふれあいまちづくりセンター（協力：神戸市中央区社会福祉協議会）
- 神戸市中央区役所・垂水区役所（職員研修）
- 神戸YWCA バザー
- 友愛幼稚園（保育士向け）
- 賀川記念館（一般向け）
- 姫路市文化国際交流財団（日本語ボランティア向け）

ちょっと腕だめし やさしい日本語

☆つぎの言葉をやさしい日本語にしてください。

- ① 和食
- ② 「そこに ゴミ捨てたら、あかんがな。
こっちこっち。」



（公財） 神戸学生青年センター
TEL078-851-2760/FAX078-821-5878
<http://ksyc.jp/> Email:info@ksyc.jp